

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 世界の言語研究所（15） 北京日本学研究中心 （中国）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/2141">https://repository.ninjal.ac.jp/records/2141</a>

## 北京日本学研究センター (中国)

徐 一 平 (北京日本学研究センター)

### 1. 概要

北京日本学研究センターは、中国の教育部（日本の文部科学省にあたる）と日本の国際交流基金が共同で運営している教育・研究機関である。実施機関としては、北京外国語大学（大学院・図書情報部）と北京大学（現代日本研究研修コース）の2機関があるが、以下では、北京外国語大学における実施部分について紹介する。

北京日本学研究センターは、前身である「全国日本語教師培训班」（通称「大平学校」）の活動を継承しつつ、中国における日本研究・日本語教育事業をさらに発展させることができる人材を育成するために、1985年9月に北京外国語大学（設立当時は「北京外国語学院」）内に設立された。中日双方の取り決めにより5年ごとに更新される「5カ年計画」にもとづき、日本から専門家の派遣、図書資料の送付、学生の訪日研修の受け入れがおこなわれ、その中で中日が協力しあって、様々な活動が展開されている。

現在、北京日本学研究センターには、「日本語学」「日本文学」「日本社会」「日本文化」「日本語教育」という五つの研究室と専攻が設置されている。「日本語学」「日本文学」「日本社会」「日本文化」は、センター設立当初から設置されている一般の修士課程で、1学年に18名の学生を募集している。2001年に開設された「日本語教育」は、2000年まで実施されていた大学日本語教師の研修コース（初期30名、途中から20名）を発展的に解消させた在職修士課程であり、現職日本語教師を対象に再教育の機会を提供している（募集定員は1学年10名）。2000年からは博士課程の学生の募集も開始し、すでに2名の卒業生を送り出すとともに、7名の学生が現在在籍している。

北京日本学研究センターでは、2004年春までに日本学専攻の修士卒業生約380名を世に送り出すとともに、約400名の大学日本語教師に対して研修をおこなった。これに前身である「大平学校」で研修を受けた600名をあわせると、これまでに中国における日本研究・日本語教育の人材を約1400名養成したことになる。

このような大規模な人材育成の成果が挙げられたのは、まさに中日双方の協力の賜物である。2004年春までに日本から派遣された派遣教授は延べにして400名近くにのぼる。現在、中国側の選任教官は11名（教授4名、助教授4名、講師3名）であり、全員が博士号または博士指導教官の資格を持っている。また、北京大学、中国人民大学、中国社会科学院など、一流の大学や研究所に所属する有能な教授や研究員を客員教授として招聘している。

研究面においては、各教官が個人研究を論文等の形で公表することはもちろん、2000年からは共同研究を強化し、国家社会科学基金プロジェクトに指定された「中日対訳コーパスの構築と応用研究」(後述)をはじめとする多種多様な研究プロジェクトを展開している。現在、各研究室が実施している研究プロジェクトには以下のようなものがある。

- ・コーパスによる『現代日中・中日対訳辞典』の編纂(言語研究室)
- ・中国における日本文学研究の現状と動向についての研究(文学研究室)
- ・近代中日西洋文明受容の研究―「特命全権大使米欧回覧実記」の翻訳を通じて(文化研究室)
- ・中国の日本語教育における主幹科目「総合日本語(精読)」に関する総合研究(日本語教育研究室)

このような研究活動を通じて、北京ならびに中国における日本学研究を活性化させる努力をする一方で、1987年以来、11回に及ぶ「日本学国際シンポジウム」を主催し、中国の日本学研究やそれに関連する事業の発展に力を尽くしてきた。

刊行物としては、研究紀要である『日本学研究』を1991年から刊行している(現在第13号まで刊行)。専任教官、客員教授、客員研究員の研究成果も学術専著シリーズの形で出版し、これまでに10冊を刊行している。言語学関係のものは以下の4冊が刊行されている(以下、中国語は便宜上日本語で表記する。)

徐 一平『日本語研究』(人民教育出版社、1994年9月)

于 日平『現代日語中原因、理由、目的句相関性的研究』(現代日本語における原因・理由・目的節の相関性に関する研究)(世界知識出版社、2000年9月)

施 建軍『漢日主題句結構対比研究―兼論主題句的計算機処理』(中日主題文構造の対照研究―あわせて主題文の計算機処理について―)(世界知識出版社、2001年5月)

王 婉莹『現代日語教学基礎―为我国日語学習者』(現代日本語教育の基礎―わが国の日本語学習者のために―)(世界知識出版社、2003年1月)

また、翻訳叢書プロジェクトとして、『日本社会学名著翻訳叢書(10冊)』、『日本経済学名著翻訳叢書(10冊)』の刊行が進行中である。さらに、中国最大の日本学関係のデータベースである『中国日本学文献総目録』(1995年)、『中国における日本研究』(1997年)も刊行している。

図書・情報の面においても、日本の国際交流基金の協力により、現在蔵書数約12万冊にのぼる中国最大の日本語図書資料館を有している。個人や団体からの寄贈による個人文庫として、「高崎文庫」「孫平化文庫」「小孫文庫」「徳川文庫」「大平文庫」などがある。蔵書はすべてコンピュータ管理されており、中国全土の日本研究者・日本語教育関係者にむけてサービスを提供している。2001年からは、研究プロジェクト「中国における日本学学習・研究情報リソースの構築」を立ち上げ、中国全土の日本語図書の情報ネットワークを構築するという課題にとりくんでいる。

## 2. 中日対訳コーパスの構築

北京日本学研究センターでは、近年のコーパス言語学の発展をうけて、1996年に「日本語教

育・研究とコンピュータ」と題する国際シンポジウムを開催した。また、シンポジウムのために全国から集まった日本語研究者、日本語教育関係者、ならびにコンピュータに関心のある研究者の協力を得て、1998年には、「中日対訳コーパスの構築と応用研究」のプロジェクトを立ち上げた。

この研究プロジェクトは、日本語研究、中国語研究、中日対照研究、コーパス言語学、情報処理、日本語教育など様々な分野の発展に貢献するものとして、立ち上げ当初から中日双方の研究者から注目され、国際交流基金と中国国家社会科学基金から研究助成費が提供された。そして、中日双方の20数ヵ所の大学や研究所の技術協力と研究者による協力を得て、ほぼ3年半の時間をかけて、「中日対訳コーパス」第1版を完成させた。

また、「中日対訳コーパス」の利用法について検討するために、2001年と2002年の2回にわたって国際シンポジウムを開催し、そこで発表された論文及び関連論文を『中日対訳語料庫的研制と応用研究論文集』(中日対訳コーパスの構築と応用研究論文集)としてまとめ、2002年9月に外語教学与研究出版社から刊行した。

「中日対訳コーパス」に収録されているのは、文学作品105(中国23篇、日本22篇、及びそれらの翻訳:約1130万字)と、それ以外の文章45(中国14篇、日本14篇、日中共同2篇、及びそれらの翻訳:約575万字)である(文字コードは、中国語はGB2312、日本語はシフトJISを使用)。たとえば、夏目漱石の「こころ」は、周大勇訳、趙徳遠訳、董学昌訳の3種の中国語訳が収録されている。以下、収録作品の一覧をあげる。

## 日本

あした来る人 坊ちゃん 越前竹人形 蒲団 雁の寺 破戒 鼻 金閣寺 こころ 高野聖 黒い雨 野火 ノルウェーの森 羅生門 青春の蹉跎 飼育 死者の奢り 砂の女 斜陽 痴人の愛 友情 雪国 日本戦後百家詩集 百言百話 ひとりっ子の育て方 激動な百年史 日本経済の飛躍的發展 心の危機管理術 近代作家入門 マッテオリッチ伝 日本列島改造論 日本国憲法 サラダ日記 タテ社会の人間関係 適応の条件 五体不満足

## 中国

遥かなる大地 棺を蓋いて 丹鳳眼 胡同 女の人について 応報 赤い高粱 輝ける道 家(上) 車椅子の上の夢 吶喊 彷徨 青春の歌 傾城の恋 チャンピオン(棋王) 人到中年 ああ、人間よ 上海の朝(1) 霜葉紅似二月花 天雲山伝記 小鮑莊 駱駝祥子 鐘鼓楼 政府工作報告96 政府工作報告97 政府工作報告98 政府工作報告99 我的父親鄧小平1 我的父親鄧小平2 鄧選1 鄧選2 鄧選3 飛鴻 毛沢東選集一 毛沢東選集二 毛沢東選集三 毛沢東選集四 毛沢東伝 日中共同声明

「中日対訳コーパス」を検索すると、検索結果とともに、それに対応する対訳部分が表示される。例えば、日本語の「だろう」を検索すれば、「だろう」を含む日本語のテキストとその部分

に対応する中国語のテキストが表示されるので、日本語原文の「だろう」が中国語でどのように翻訳されているか、あるいは中国語原文のどのような表現が「だろう」に翻訳されているかがわかる。

このような特徴を持った「中日対訳コーパス」は、中国語と日本語の対照研究においてたいへん有効なツールとなる。例えば、上記の『中日対訳語料庫の研制与应用研究論文集』に収められた曹大峰「中日対訳コーパスとその対照研究への援用—「吧 (ba)」と「だろう」の研究例—」によれば、中国語の文末詞“吧”は、推量や確認要求の意味を表す点で、日本語の「だろう」と似た性質を持つが、実際には、「だろう」と“吧”が対応する例は意外に少ないことが報告されている。また、同論文集所収の彭広陸「パーフェクトを表す「している」と対応する中国語の表現—「中日対訳コーパス」を資料として—」では、パーフェクトの「している」に対応する中国語の表現に様々なものがあることが明らかにされている。

「中日対訳コーパス」では、以下のような様々な検索が可能になっている（全角と半角は区別されるので、両方の可能性があるときは、全角と半角を併記して指定しなければならない）。

#### ①候補語指定（特定）

・ 1 語指定

・ 複数語 OR 中国語 | 日本 | 韓国 （「中国語」「日本」「韓国」のいずれか 1 語を含む）

中 [国心間] （「中国」「中心」「中間」のいずれか 1 語を含む）

中 ((心部) | (間部)) （「中心部」「中間部」のいずれか 1 語を含む）

・ 除外文字指定 中 [^国心間] （「中国」「中心」「中間」を除く「中～」を含む語）

このほか、文型指定（最初と最後の単語を指定して、両者に囲まれた部分を検索）、間隔文字数（最初と最後の単語及びその間の文字数を指定）などの検索も可能である。

#### ②候補語指定（不特定）

AABB, ABAB, ABB, ABA, AAB, AA の 6 パターン。（オプションで、A, B に対し特定の 1 文字をそれぞれ指定できる。）

#### ③検索式

本ツールでは、Unicode をサポートし、柔軟性の高い NET Framework の正規表現の使用が可能である。

検索結果は IE に表示され、IE から印刷することはもちろん、Unicode で TXT ファイルに保存することも可能である。結果内容の一部をコピーし、Word, Excel などのアプリケーションに貼り付けることもできる。

### 3. 中日対訳コーパスの利用について

「中日対訳コーパス」を利用するには、以下の環境が必要である。

#### (1) ハードウェア

PC/AT 互換機、メモリ：64MB（NT 系は128MB）

HDD：10MB 以上の空きが必要（コーパス本体を除く）

(2) ソフトウェア

OS：Windows NT4.0/2000/XP（NT4.0は日本語または中国語の拡張オプションが必要）

Windows 98/Me（日本語固有文字を含む検索は日本語 OS のみ。中国語固有文字を含む検索は中国語 OS のみ）

NET Framework SP2, MDAC2.6以上, IE5.5以上

「中日対訳コーパス」第1版は、言語研究者個人の研究利用を目的に、内部で限定配布するものであるが、利用者の研究の利便を図ると同時に、研究利用によって発見された問題点をフィードバックしていただくことにより、コーパスの品質向上を図りたいと願っている。そのため、利用者には下記の義務を負っていただいている。

- (1) 知的所有権などに関する「覚書」（ファイル「oboe.doc」参照）に記入・署名捺印のうえ、配布者へ返送する。
- (2) 利用期間中に問題点が見つかったら、所定の様式によってバグレポートを配布者に提出する（ファイル「bagu.doc」参照）。
- (3) コーパスを利用した研究成果物のコピーを配布者に提出する。

中日対訳コーパスの入手法については、下記までご連絡いただきたい。

100089 中国北京市海淀区西三環北路2号  
北京外国語大学216信箱 北京日本学研究センター  
日本語研究室 譙燕 qiao5522@hotmail.com

北京日本学研究センターホームページ <http://202.204.141.11>